

# 委託事業実施内容報告書

## 平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

### 【日本語指導者養成】

受託団体名                      総社市

#### 1 事業の趣旨・目的

地域での社会生活および生活支援において外国人住民と密接なつながりがある女性を対象として、国際理解教育を行うとともに日本語教育の基本的な心構えを身につけてもらうことにより、生活者としての「協働の場」を提供し、地域住民間の関係構築を行い、日本語を学ぶ外国人が地域社会に受け入れられるようサポートすることを目的とする。

#### 2 運営委員会の開催について

##### 【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
6月24日(木) 13:00～15:00	市役所2階東会議室	中東 靖恵 楽木 章子 平松 秀昭 谷井 武夫	「生活者としての外国人」のための日本語教育事業指導者養成講座について	募集方法、受講対象者、受講後の人材活用について協議
11月10日(火)15:00～16:30	市役所2階会議室	中東 靖恵 楽木 章子 平松 秀昭 谷井 武夫	「生活者としての外国人」のための日本語教育事業中間報告について	運営状況の中間報告。受講者アンケートの結果報告。課題検討と今後の改善等について
2月24日(木) 13:30～15:00	市役所2階第2委員会室	平松 秀昭 中東 靖恵 楽木 章子 谷井 武夫	「日本語教室の設置運営」についての総括	後半の運営状況の報告 受講者アンケートの結果報告 ふりかえりと今後について

##### 【写真】



### 3 養成講座の内容について

- (1) 養成講座名 日本語教室ボランティア育成入門研修
- (2) 養成講座の目標
- 1) 日本語指導経験豊富な講師を迎え日本語の指導法を学ぶ
  - 2) 本講座を修了後は、希望に応じて本市にて9月～2月に行われる日本語教室にボランティアとして参加してもらうなどし、研修の成果を確認するとともに、さらなるステップへとつながるようサポートする。
- (3) 受講者の総数 12人  
(出身・国籍別内訳 日本人12人)
- (4) 開催時間数(回数) 20時間 (全5回)
- (5) 参加対象者の要件 多文化共生に関心のある市民
- (6) 受講者の募集方法  
市の広報誌及びホームページでの告知。  
市内各所へのチラシ、案内の配布及び掲示。  
※チラシは別添のとおり
- (7) 研修会場 総社市総合福祉センター 技能習得室 保健センター 保健指導室
- (8) 使用した教材・リソース 教師による自作プリント
- (9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
9月18日(土) 13:00～ 17:00	開講式 概論① 日本語教育の現状 概論② 表記(ひらがな・カタカナ) わかりやすい日本語① /WS:市の広報をやさしい日本語に ※宿題① 動詞の活用	ONN 講師 青井 由佳	11名
10月2日(土) 13:00～ 17:00	概論③ 動詞の活用 マレー語による授業(直接法) 授業の進め方 ※宿題② 形容詞の活用	ONN 講師 青井 由佳	13名
10月16日(土) 13:00～ 17:00	概論④ 形容詞の活用 概論⑤ 語彙 わかりやすい日本語② /WS:わかりにくい語彙を説明する ※宿題③ わかりやすい日本語を使う わかりにくい日本語を探す	ONN 講師 青井 由佳	11名

10月30日(土) 13:00~ 17:00	わかりやすい日本語③ /WS:わかりにくい日本語の発表 日本語能力検定試験の説明 概論⑥ 助詞 模擬授業の説明 /授業計画・教材研究 ※宿題④ 模擬授業を準備する	ONN 講師 青井 由佳	10名
11月13日(土) 13:00~ 17:00	受講者による模擬授業	ONN 講師 青井 由佳	9名

【写真】



(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート 講義終了後実施

※アンケート様式は別添のとおり

主な意見)

- ・外国人が日本語を学ぶ際にどのような点が問題となるのかがわかった。
- ・学習者の立場にたつて、普段使っている日本語を再認識することができた。
- ・隔週だったが、毎回課題を課せられていたので学習意欲を持続できた。

② 実施主体からの研修内容結果評価

4時間×5回(20時間)という限られた時間の中での講座なので、「指導力」をつけるというよりは、日本語を習得途中の外国人と交流するために必要な最低限の知識を培うことを主眼においた。

そのため、アンケートによると受講生の全体的な満足度は高かったが、更に学習を継続し専門的な知識を身につけたいという声が多く見られる結果となった。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

- ・多文化共生推進事業(ブラジル人コミュニティと地域住民との文化交流等)の促進
- ・AMDA グループとの多文化共生に関する協定(外国人住民への医療支援)に基づく国際理解学習等の事業の実施
- ・外国人相談窓口での相談体制の充実

- ・外国人住民の子弟のための教育事業の推進
- ・日本語教室の設置による日本語教育機会の確保と、今後の運営を見越した人材育成事業の実施
- ・外国人集住都市会議への参加と会員都市との連携

## (11) 事業の成果

### ① 他事業との連携

受講生を対象としたメーリングリストを作成し、地域の外国人(主にブラジル人)コミュニティが主催するイベントや日本語教育の学習会等の多文化共生に関する情報を定期的に提供している。

### ② 研修後の人材活用

受講生の中には、積極的に地域の多文化共生事業に参加して文化交流を試みる者が少なくない。イベント等で外国人とふれあうだけでなく、日本語指導に関する講演会に参加するなど意欲の高さが伺える。また講師に対し、専門の学習機関で本格的に日本語指導者としての学習を始めたいと意欲を語る受講生もいる。

当市の現状では彼らが日常的に活躍できる場所がごく限られており、イベント等の一時的な場面だけでなく、継続的に人材を活用できる機会を増やすのが急務である。

## (12) 今後の課題

現在、当市には外国人向けの日本語教室や日本語学習ボランティアの活躍できる場が少なく、受講生たちを修了後に受け入れる機関がほとんどないというのが現状である。また、高い意欲を持つにも関わらず受講生たちは、実際に日本語教室を立ち上げるなど、主体的な活動を行うには至らなかった。その理由として、今回の講座が基本的な知識の習得を目指すものであったという点もあるが、一方で「リーダーシップを取れる人材の不在」「経験不足に伴う不安」「運営に対する知識不足」などの問題点が原因となっていたとも考えられる。

これらの点を解消するには、既存のボランティア教室などで活躍している経験者との協力関係の構築や、実際の運営面に伴う諸問題(例えば利用可能な施設や広報の方法等)の解決策について習得することが不可欠と思われる。更には、受講生同士がチームとして連携し課題に取り組んでゆける環境を作り、より地域に根ざした継続的な活動を可能とする基盤の構築が求められている。

## 日本語ボランティア養成講座アンケート

### \* このコースはいかがでしたか？

- このコースを受けるまでは、外国人の方から「て形容詞・い形容詞」と聞き形容動詞も形容詞と驚きました。どうしてだろうかと思っていたが、実は日本語を外国語として学習するための独自の文法があり、それは外国人の方(日本語を母国語としない方)にわかりやすく理路整然ということがわかった。
- このコースを受けるまでは、重荷、文法的なものが中心で参加者はある程度資格に近いものをお持ちの方ばかりと思っていたが、実は教えられる(学ぶ)人たちを主体として、あくまでも“わかりやすい”日本語を目指していること、参加者の動機もさまざまということがわかった。
- このコースを受けるまでは、ボランティア活動+国際交流につながることを無料で受講できてラッキーと気楽に思っていたが、実は本格的に勉強するんだと驚き、人に教えることは容易ではないな〜ということがわかった
- このコースを受けるまでは、日本語教師は小学1年生レベルのテキストを使って日本人の子供と同じように教えることが出来ると思っていたが、実は日本人が何とも思わずに使っている言葉が外国人には理解できないことがたくさんあるのだということがわかった。
- このコースを受けるまでは、日本語を学ぶことよりも外国語を学ぶことのほうが難しいと思っていたが、日本語を学ぶことは思ったより難しいということがわかった。
- このコースを受けるまでは、日本語は話せるのだから、日本語教師は無理でもお手伝いならできるのでは…?とと思っていたが、実は、「日本語」は難しく、感覚として使っている言葉をきちんと説明するのはとても大変なのだということがわかった。
- このコースを受けるまでは、もっと簡単にできると思っていたが、実は日本語が外国語で真剣に勉強しないと人には教えられない。ということがわかった。
- このコースを受けるまでは、「わかりやすい日本語」という日本語すら知らず何のことだろう?と思っていたが、実は外国人や日本人全ての人に理解してもらえる「わかりやすい日本語」に言い換える事が出来る事は素晴らしい事だ!ということがわかった。
- このコースを受けるまでは、日本語を自由自在にしゃべっているの、外国の人に教えるのもそう難しいことではないと思っていたが、実は自分が無意識にしゃべっている日本語について大して理解していなかったということがわかった。

### \* 「4時間×5回」という長さについて

- 久しぶりに勉強ができ、いつも短く感じた。5回とも。
- 長時間の“学び”の高速に慣れていなかったの、少々“息ぎれ”も。
- はじめは“4時間”が長く感じたけど、次第に慣れた。
- はじめの1~2回は、4時間集中するのに大変だったが、慣れてくるとあっという間で楽しく学習できた。
- 長い→3時間×6回の方が better
- ちょうどいいと思います。1回4時間は体調がよくなかった日はちょっとハードに感じる時もありました。
- 良い長さでした。
- ちょうど良かったと思います。

### \* 隔週について

- 宿題が楽しくやれました。忘れない程度の期間でした。
- 宿題を復習と平行しながら行うのには適切と思います。
- 適当
- 負担にならず、ちょうど良かった。
- 早い→月2回(3ヶ月)のほうが better
- もう少し回数を増やしたほうがいい。
- よかったです。毎週だったら参加が難しかったです。
- 課題があったので隔週でよかったです。
- ちょうど良かったと思います。

### \* 開校時期、時間について

- 自分にとってはいつでも受け入れ態勢です。時間は集中講義でありがたいです。
- 就学児童がいらっしゃる方には、年度末、始めを避けたこの時期はよかったのではと想像します。時間は休憩時間の回数が2~3回程度いただけたらと思います。
- 特に問題ないです。
- よかった。
- よい。
- ちょうどいいスケジュールです。
- 特に問題ありません。
- 私にとっては参加しやすいタイミングでした。

- ・良かったと思います。
- ・秋は、(私にとっては)行事の多い季節なので、他の季節の方がベターです。

### \* 「日本語教育に関する理論」についての授業について

- ・マイ情報では、欧米のものが多く、アジア(中国・韓国 etc)に支えられていると思った。公用語にはなりそうにないが、役割は大きいと思えた。
- ・参考になりました。
- ・文法の再確認はもう少し時間をとって教えてもらったほうが良いと思う。すぐ忘れるので・・・
- ・全く忘れていた文法などを思い出すことができ、日本語について再確認することができた。
- ・ちょうどよい
- ・全体の流れがわかりました。
- ・日本語ってこんな言葉だったのか?!と新鮮な感じでした。国語の文法は苦手でしたが、今回興味もてました。
- ・難しかったです。
- ・わかり易く工夫された内容で、よく理解できました。

### \* 「わかりやすい日本語」について

- ・無意味ではないが言葉をもてあそんだり乱れた言葉が出たりしては伝わらないと感じ、簡潔でわかりやすい文が必要とわかりました。
- ・“教える”側に徹するあまりつい“学ぶ”側の状況が目に入らなくなるというミスを改めて気づかされたような気がします。
- ・ネイティブ(日本語)として、私たちが何気なく使っている言葉が外国人には伝わりにくいと再確認できた。
- ・まさに日々思っていたことだった。なぜわざわざこんなにわかりにくい言葉を使うのだろうと常々思っていたので、外国人だけでなく、日本人にとっても必要なことだと思った。
- ・ちょうどよい
- ・楽しく勉強できました。
- ・わかりやすく表現することが、思っていた以上に難しかったです。伝えるため、わかってもらうために工夫が大事だと思いました。
- ・「～します」など、時々思い出して、訳して日々過ごして行こうと思います。
- ・総社市ごみ袋の情報を題材にして、シンプルに伝える方法が、大変わかりやすかったです。
- ・欠席しました。

### \* 「チーム作り」について

- ・異性あり、異年齢ありでどなたも話しかけてくださいました。一人一人のよさがうらやましく、自分を高めようことができました。おかしいかも?!
- ・先生の細やかな気配りとフォローのお陰で非常にスムーズに行われたと感じます。
- ・皆さんと「チーム」にまでなれなかった気がする。少し残念に思うところだ。
- ・もっといろいろな人と話したかった。5回しか行かなかったのも、なんとなく微妙な距離感があり、チームとまではいかなかった気がする。
- ・自然にできたと思う。コミュニケーションは、積極的にとっていないが自分らしくできた。
- ・とてもよかったです。
- ・講座終了後なかなかゆっくりする時間がなく、講座以外でお会いする機会もなかったのも、チームまでには至りませんでした。今後の活動を通じて作っていきたいと思います。
- ・特に仲の良い人はできませんでしたが、最後の発表は、とても個性があつて、皆さんを身近に感じる事が出来ました。皆さんの名前は覚える事は出来ませんでした。
- ・個性的かつ楽しくかつ前向きな方ばかりでとても楽しかったです。

### \* 「宿題」について

- ・久しぶりでうれしく、ルンルンで取り組み、新しい発見もあり、50音表の偉大さを再認識しました。
- ・2週間頂いたことで、余裕を持つことができました。
- ・面白く取り組めるものもあったし、負担に感じたものもあった。(発表とか)
- ・難しすぎず、ちょうどいい量と質だった。毎回宿題が出ることでこの講座のことを忘れずにいることができた。
- ・できる範囲でやりました。答えあわせを発表する機会が少なかったのが良かった。
- ・勉強になりました。
- ・隔週だったので、取り組む時間が取れました。巻き込む人がもっとたくさんいたら、より楽しめそうです。
- ・宿題と言うより・・・私にとっては「課題」でした。自分ではとてもがんばったつもりです。
- ・なかったら多分 2 週間何もしないで次の講座に出席するようになると思うので、復習できてよかったで

す。

#### \* 講師について

- ・講師は、豊富で深いテクニック。奥深い内容と感じています。エスプリの効いた切り口、話し方で退屈は全然しませんでした。20時間でしたが、内容は倍ぐらいあったのではと感じています。もっとそのまままで続けていかれたほうが良いと思う。
- ・講師はとてもピンポイントをついた適切なアドバイスを各所で頂いたことです。さすがに、これまでのキャリアが生かされていたように思います。また、われわれ生徒側に積極的に入ってくださる姿勢が大変嬉しかったです。
- ・講師は親しみやすく質問などいいやすかった。もっと先生然としてえらそーにしてもいいかも。
- ・講師は、親しみやすく、標準語で話をしてくださったのがよかった。
- ・講師は、興味を持てるように配慮して下さり、感謝しています。進め方も具体的でありよかった。
- ・講師は詳細な講義で有益でした。
- ・講師は、ご経験も知識も豊富で、わかりやすかったです。形式ばってなくて、楽しく受講できました。例えや事例が的確でイメージしやすかったです。もっと最後の模擬授業の前に、例えばグループミニロープレのような実践練習があったほうが良いと思う。実践のときの皆さんからのコメントが勉強になりました。先生と同年でしかも共通の友人がいてビックリしました！！ご縁を感じました。
- ・講師は青井さんです。色々思考をこらされていました。席を向かい合わせにしたり、名前を書いたり、共通意識だったり…大変だったと思います。
- ・講師は、日本人からするとタイ語がとてむすぐには覚えられないと気づかせてくれて、日本語のひらがなカタカナが外国人の方達には、どう写るのが考えさせられた。
- ・講師は「日本語教育」—外国語としての日本語の教育—とはどういったものかについて、とてもわかり易く指導して下さいました。

#### \* その他

- ・私は全部がよかったです。
- ・感謝の気持ちでいっぱいです。よい機会を頂き、本当にありがとうございました。休憩時間を設けてほしかったです。
- ・「マレー語による～」はよかった。もっと次の行動につながることの多少強引な呈示があっても良かったな。
- ・毎回楽しく勉強することができたのはよかった。最後に茶話会ができなくて残念だった。
- ・外国人の方がどのように日本語を学んでいくのかを知ることができたのがよかった。すぐに実践できるようになったかという点、実はあまり…。もっと実際に教えているところのビデオ等、現場の感じがわかるとゴールのイメージがつかめると思います。
- ・全ての講習に参加できるか不安でしたが、全て出席できたのはよかった。講習の中で歌がありましたが、私は“元”の歌を知らなかったもので、歌はあまり…。もっと最近の感じで…。
- ・マレー語による直接法の授業は、全く知らない言語に触れる緊張感が体験できて、とてもよかった。もう少し模擬授業について学んでから実践した方がよかったかも…。模擬授業いきなりは難しいのでは…？

#### \* このコースを終えて思ったこと。

- ・伝える方法。手段は難しく思っています。でも伝えたい気持ちはわいてきたと思っている。これから思うだけでなく、実践が少しずつでもでき徹々たる国際交流からでも始めようと思決意している。
- ・外国の方を“生徒にする”というより、ともに学ぶ気持ちが大切だということを最後の授業で強く感じました。これから“日本語”の勉強が自分自身に求められているという点と共に外国の方々に“伝える日本語”の重要性がさらに必要になると痛感しています。
- ・意外に楽しく面白かった。参加してよかったと思っている。これから何らかの形でこういった活動に携われたら…と思う。(もちろん出来る範囲で)
- ・どうしようかと思っている。これから、この5回の講座での勉強をどう生かしていけばいいのだろう。やっと「ボランティアはどのようなものか」がわかり始めたところなので、これで終わってしまうのはもったいないような気がする。
- ・日本語ボランティアとしての活動を機会があれば、できるだけ参加したいと思っている。
- ・もっと勉強したいと思っている。外国人の方と仲良くなりたいと考えています。
- ・日本語を文法からきちんと説明するのは大変なことだとわかりました。でも、せっかく学んだのだから、生かしていきたいと思っている。これから、日本語教室の見学から始めて、少しずつでも関わって、サポートできるようになりたいと思います。ありがとうございました。
- ・辞書で引く(やさしい)日本語について少しずつ考えていこうと思っている。これから、日常生活でも使えるようになればいいと思っています。
- ・このコースを終えて、十分に参加できず残念に思っている。これから「みちくさ小道」など参考にさせ

て頂き, できる範囲で, 外国人の方々とふれあう機会を持ちたいと思います。

- 学んだものを, 何らかの形で生かしていきたい。これから日本語ボランティア養成講座 Step2,3...を開講してほしい。